

「大きくなれ」 川南の園児 稚魚を放流

子どもたちに古里の自然を体感し環境保全を考えた。おと、川南町と平田川淡水漁協（河野寛治組合長）は10月27日、同町垂門の平田川で保育園児を対象にしたつちの放流体験を開いた。約4千匹の稚魚を放流した園児たちは「大きくなつてね」「ほいほい」と声を掛け、元気に泳いでいく姿を見守っていた。

同町中央保育所の年長組26人が参加。園児たちは体長2、3センチの稚魚をバケツにすくい取ると、川岸にしゃがみ込み丁寧に放流していった。中には5センチほどの稚魚もいて、最初は恐る恐る触っていた園児も、慣れてくると両手で優しく握り顔に近づけて観

察したり、そろそろの感触を確かめたりしていた。

村井心虹ちゃん（6）は「最初は怖かったけど、触ってみるとサラサラしていた。早く大きくなつてほしい」と笑顔。河野組合長は「生きた魚を触るとは少なくなり、子どもたちにとっては貴重な経験になる。今後はカニの放流なども考えていきたい」と話していた。（坂元穂高）



バケツで次々と稚魚を放流する園児たち

2011.11 宮日